JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

September 30, 2023, No.21

JACET 関東支部ニューズレター第 21 号（WEB 版）刊行に寄せて

支部長　山口高領（秀明大学）

JACET 関東支部の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。第 62 回 JACET 国際大会も盛会に終わり、また、関東支部の先生方からは多くの方に司会を行っていただけました。

2023 年度からの現在の関東支部の体制としては、副支部長には、長田恵理先生（國學院大學）、支部事務局は、佐竹由帆先生（青山学院大学）、新井巧磨先生（早稲田大学）、鈴木健太郎先生（北海道教育大学）という 3 人にお手伝い頂いております。支部幹事は、この３人の先生方に加え、青木理香先生（東洋大学）にお引き受けいただいております。

私は 2023 年 6 月から、関東支部支部長を続投することとなりました。2025 年 6 月までの任期ですが、その後は次の支部長に引き継ぐことが規約上決まっております。会員のみなさまへの還元を常に考えつつ、次の体制へ発展させていきたいと考えています。こうした還元や発展のために、関東支部の会員のみなさまからのご意見を集め、実行していくことが、私の支部長 2 期目の目標と考えております。

JACET 関東支部では研究企画委員を募集しております。JACET の運営は 2 年単位で行われておりますが、現在 2024 年度の研究企画委員を検討しているところです。支部での仕事を分担し、和やかな雰囲気でさまざまな企画を実行していきたいと常に考えております。研究企画委員にご興味がある方は、JACET 関東支部事務局のメールアドレス jacet.kanto.office@gmail.com までお尋ねください。支部運営会議を経て、新たに委員をお願いするという流れであります。

関東支部の主な活動は、関東支部大会の開催、JACET-Kanto Journal の発行、関東支部講演会の開催、ニューズレターの発行です。研究企画委員は上記の委員会のどれかに参加し、運営を行っております。2023 年度の 4 月から 9 月までの活動の詳細は、本文を御覧ください。

今後とも、ますますのお力添えを頂けますと幸いです。

目次

・巻頭言
JACET 関東支部長　山口高領 ……-1-

・第 16 回関東支部大会報告
支部大会運営委員長　山口高領 ……-2-

・第 1 回支部総会報告
支部事務局幹事　佐竹由帆 ……-6-

・支部講演会委員会報告
支部講演会委員長　青木理香 ……-9-

・JACET 関東支部講演会（第 1 回）報告
支部講演会委員　青木理香 ……-9-

・支部紀要編集委員会からのお知らせ
支部紀要編集委員長　鈴木健太郎 ……-10-

・事務局だより
支部事務局幹事　佐竹由帆……- 10 -

第 16 回　関東支部大会報告
支部大会運営委員長
山口高領（秀明大学）

【はじめに】

今回も、支部大会テーマに沿った基調講演とワークショップを開催できました。テーマは Language Learning Advising: A Profound Understanding of Its Potential「言語学習アドバイジング：その可能性を深く知る」でした。また、ChatGPT についての特別講演も行うことができました。本年度も、Zoom を利用することで遠隔や大会当日のご予定がある方が参加しやすくしましたし、発表者の許可を得ることで後日の録画視聴サービスを提供できました。関東支部以外の会員の参加もあり、非会員の方も参加しました。

青山学院大学にて２つの教室を確保したのですが、来場者は極めて少ない結果となりました。第 62 回 JACET 国際大会は対面開催ということで来場者も多かったことを考えますと、支部大会の開催形態の見直しを検討することが必要かと思います。また、会員のみなさまの多くの意見を取り入れる必要性を感じています。そのため、本文書の最後に、今後の関東支部大会の開催形態についてのアンケートのお願いを申し上げます。

【司会者による後記】

以下に、実践報告と研究発表について、司会をしてくださった先生からのご報告を掲載します。なお、プログラムにあるとおり、賛助会員 LT や関東支部バイリンガリズム研究会の紹介も行われました。

9:00-9:30 (Main Room) ＊実践報告「留学前準備としてのグループコーチングの可能性」
関戸冬彦（白鷗大学）・水沼早希（白鷗大学）

グループコーチングを用いた留学事前準備の実践報告がなされた。参加学生は、留学前、自身の学習を計画し、実践、振り返りを行う為の「学びのための専用シート」に毎週記入をした。その結果、学生の中で、取り組みの伝染が起こったことが、学生の記述から明らかになった。質疑応答では、教員の学生へのフィードバックの仕方、声がけについて質問があり、個々の学生が一歩前に進めるような声がけを行った事が報告された。（辻るりこ・和洋女子大学）

9:40-10:10 (Room1) 研究発表「Trajectories of Learner Reflections During Team-based Collaborative Learning」
Akie Yasunaga （東京電機大学）

The presenter of the study introduced team-based collaborative learning (TBL) into General English courses during the COVID-19 pandemic, using a hybrid form of teaching that connected face-to-face and online students via Zoom. Developed by Michaelsen in the 1980s, TBL is an educational strategy that uses collaborative activities in small groups to promote active learning and has been widely adopted across academic disciplines and countries. She distinguished TBL from cooperative learning (CL) and then explained how she used TBL to ensure active participation on the Zoom platform during the COVID-19 pandemic. TBL follows a systematic instructional sequence consisting of three phases: Readiness Assurance Process (i.e., RAP), Application, and Assessment. The TBL approach involved students completing pre-class learning activities, engaging in collaborative discussions during class time, and working on culminating projects to synthesize their knowledge. Students' reflections on TBL revealed positive psychological changes during the progressive TBL activities, including the development of a collaborative mindset, accumulation of subject knowledge, improvement of teamwork skills, and reflection on accomplishments. Overall, the study

suggests that TBL can be effectively applied in general English courses to promote active participation and enhance students' learning experience. （Akiko Watanabe, Ritsumeikan University）

9:40-10:10 (Room2) ＊実践報告「対面・オンラインによる言語学習相談の運営に関する実践報告」
木村雪乃（獨協大学）・ワイルド玲奈（獨協大学）・中村麗奈（獨協大学）・西香生里（獨協大学）・渡邊一弘（京都大学）

効果的に英語学習を進めていく上で、学習者ひとり一人のニーズやレベルに合致した教材を紹介したり、学習上のアドバイスをすることは学習者支援の観点から大変重要である。獨協大学「英語学習サポートルーム」は十数年にわたり、学習者支援を組織的に行ってきた。コロナ禍により対面授業ができなくなり、LMS を利用した書き込み式オンライン相談や Zoom による相談、そして対面と Zoom の併用であるハイブリッド形式の相談を、コロナの状況に合わせて展開してきた。対面、オンライン相談はそれぞれに長所・短所を併せ持ち、その特性を活用しながら、効果的な学習相談形態を探ってきた。目まぐるしく変わる環境の中、獨協大学英語学習サポートルームは学習者の多様な相談に対応し、その積み重ねから得られた知見は、同様の学習支援を考えている多くの教員の参考になったと思われる。（大東文化大学・田口悦男）

10:20-10:50 (Room1) ＊実践報告「中学・高等学校教員養成課程外国語（英語）コアカリキュラムに基づいた教職課程での学びの検証」
村岡有香（聖学院大学）

コアカリキュラムに基づき編成された教職課程科目を履修した学生が、どの程度コアカリキュラムの内容を理解できたかをアンケートによって調査したものである。結果、「英語科に関する専門的事項」よりも「英語科の指導法」に関する理解度の方が比較的高く、「英語科に関する専門的事項」のなかでも「英語文学」に関する項目の平均点が特に低かった。筆者が作成した教本を用いた指導が、第二言語習得に関する知識・観点別評価の手法・評価規準の設定方法・学習指導案の作成方法についての学びを促進したことが示唆された。模擬授業で学生が従来通りの単語や文法指導に終始する様子も紹介され、具体的な教室場面が想起される発表であった。（國學院大學・長田恵理）

10:20-10:50 (Room2) ＊実践報告「理系大学生の国際学会発表準備ワークショップ開発―専門科目教員と英語教員の協働から―」
河野円（明治大学）・福地健太郎（明治大学）・James Elwood（明治大学）

理系大学生が国際学会で英語口頭発表を支援するプログラム開発について実践報告がなされた。開発準備は、学生参加者を対象としたニーズアナリシスによる分析結果をもとに、専門科目教員と英語教員が協働して行った。ワークショップに参加をし、国際学会で発表をした学生参加者を対象としたインタビュー分析結果から、プログラムの有効性や改善点等が浮かび上がった。（清泉女子大学・大井洋子）

11:00-11:30 (Room1) ＊研究発表「英語『論理・表現』授業への示唆―オックスフォード・ユニオンのディベート分析」
中谷安男（法政大）

本発表では、世界最大の学生組織「オックスフォード・ユニオン」のディベートのトレーニング方法を「論理・表現」の授業に取り入れる可能性が議論された。具体的には、State、Explain、Illustrate から成る SEXI 戦略を学ぶことで学習者は論理的なスピーチを構築する力を身に着けられる。また、実際のスピーチを基につくられたコーパスを用

いてディベート中の発話の特徴を調べた結果、we need to のように we を使う例がもっとも多かったことが報告された。（神村幸蔵・筑波技術大学）

11:00-11:30 (Room2) 研究発表「基礎教養英語リーディングクラスにおける教科書リストの導入:学生へのアンケート調査とインタビューを通して」
志村美加（学習院大学）・中竹真依子（学習院大学）・小杉弥生（学習院大学）・永田祥子（学習院大学）・目黒沙也香（学習院大学）
本発表では大学英語プログラム改編において 2023 年度に導入する教科書リスト作成のための要素として、教科書の難易度と内容の観点から調査結果と考察が報告された。学生へのアンケートおよびインタビュー調査の結果から、教科書を選択する際は学生の TOEIC スコアよりも少し高いレベルのもの、学生にとって新しい知識となる内容が多いもの、を選ぶことで、読むモチベーションを維持させる配慮が大切であることが示唆された。（西川惠・東海大学）

11:30-12:20 (Main Room) ＊招待講演「ChatGPT が英語教育にもたらすもの」
水本篤（関西大学）
参加者 106 名の熱気の中で始まった本招待講演では、ChatGPT の突然の出現に狼狽しがちな英語教員に「学習者の英語力を育てるためにも ChatGPT との共生はこんなに意義深い」ということが様々な角度から具体的に示され、資料も開示された。共に前向きに取り組み、その成果を共有しようとの呼びかけもあり、それに共鳴するように質疑応答は口頭で 2 名､チャットには様々な質問が続き、先生の明快なコメントで理解が深められた。（河内山晶子・明星大学）

13:00-14:00 (Main Room) ＊Keynote Speech
“Advising in language learning: How reflective dialogue supports students”
講演者：Jo Mynard（神田外語大学）
reflective dialogue を用いてどのように自律学習を促すのか、理論的な背景と具体的な方法を交えながらご講演頂いた。学習アドバイザーはアドバイスを与えるのではなく、学習者と対話を行いながら学習者の考えや思いを引き出すことが求められる。対面だけでなく紙面やオンラインでのアドバイジングなど、個々の状況に応じた方法で行えるため、アドバイジングの実施に対するハードルが下がる印象を受けた。（伊藤泰子・神田外語大学）

14:10-15:40 (Main Room)＊Workshop “Practical advising approaches for facilitating reflection and promoting wellbeing”
発表者：Satoko Kato（神田外語大学）
基調講演で reflective dialogue について理解をした上で、ワークショップで実際に reflective dialogue を実施する機会を得た。参加者はペアになって Repeating、Summarizing、Complimenting、Asking powerful questions という４つのストラテジーを試した。実際にやってみると簡単ではないが、普段の授業や学生との対話にも生かせる手法であると感じた。（伊藤泰子・神田外語大学）

15:50-16:20 (Main Room)＊実践報告「Effect of interaction to develop 21st-century skills and cross-cultural sensitivity for Society 5.0」
Hiroyuki Obari（青山学院大）
Professor Obari gave a presentation on his study which focused on how his university students' language proficiency, attitude towards using English, cross-cultural sensitivity, and 21st-century skills improved after a semester dedicated to enhancing presentation, cross-cultural communication, and leadership abilities. The students had ample opportunities to interact intensively with overseas young Christians and professors, both face-to-face and

online, using various tools and software. Actual lesson clips demonstrated their engagement with native speakers, further motivating foreign language learners. The diverse range of topics, such as religion, SDGs, science and theology, and global issues, inspired the students in their CLIL classes. By the semester's end, the students not only improved their language skills but also developed a positive worldview. The presentation highlighted the importance of human interaction amid rapid AI progress. It emphasized how personal connections and collaborations with individuals from different cultures can shape well-rounded individuals.

The transformative impact of fostering cross-cultural exchanges and communication skills in pursuit of global competency was evident. In a world driven by technology, the report urged reflection on the significance of personal connections. The experiences showcased the power of international collaboration in creating a more open-minded and optimistic student body. The semester's success underscored the value of such educational approaches in preparing students for a diverse and interconnected world. （Yoko Asari, Waseda University）

16:30-17:30 (Main Room)＊関東支部 SLA 研究会発表「第二言語語用論を加味した英語教育の提案： 検定教科書への体系的導入に向けて」
吉冨朝子（東京外国語大学）

SLA 研究会では、昨年度から L2 語用論についての輪読会を続けており、大会では文献研究に基づく考察を発表した。新学習指導要領においてコミュニケーション能力の柱のひとつである L2 語用論が明記されていないことを問題視し、英語教育において語用論が扱われない理由として 7 つの問題点を掲げ、それらに対する対応を提案した。特に、CEFR に準拠して語用論を検定教科書に体系的に導入し、言語テストにおいて評価することの重要性を説いた。（吉冨朝子・東京外国語大学）

【大会参加者によるアンケート結果】

次に、今回の支部大会に参加してくださった方を対象に行った無記名アンケート結果の概要をお知らせします。回答数が例年と比べ若干少なかったのが課題でありますが、貴重なご意見を頂けました。非会員の方のアンケート結果も入っています。

<今回の支部大会のよかった点>

・オンラインでの開催
・後日動画視聴サービス
・部屋などの移動がスムーズだった。
・全国大会や学術的研究発表メインの会に比べるとまた別の位置づけとも言え、多様性・選択肢の広さという点からよいのではないか。
・会員同士が助け合いながら進行を進めていた点が，オンラインでの大会であったにもかかわらずとても身近に感じた。
・他支部会員ですが、関東支部の雰囲気が好きで頻繁に参加させていただいております。

<今回の支部大会の改善点>

以下の改善点を頂きました。次回以降に反映できると考えます。

・Zoom 上での breakout room の振り分けの難しさがちょっと残念でした。
・参加者の名前に所属大学があると、発表者が入室しているかやお名前を探すときなどわかりやすい。
・録画を見る中で、講師の方が提示してくださったパワーポイント資料等をダウンロードできるとよい。

<基調講演やシンポジウムで取り扱ってほしいテーマ>

・AI・VR・最新の Technology を利用した英語教育、AI と人間の違い
・今回 ChatGPT やオンラインを使った授業をトピ

ックにあげられていましたが、何か最新の知見を共有できるようなテーマ
・英語教育と関連があり、英語教育に応用できる、異なる分野で面白いテーマで研究をしている方を講演に招くことで、今後の SLA 研究や実践的教育に参考になるかもしれません。
・ESP・EAP、テスティング・学力測定
・音声語彙、発音
・自律的な学習者の育成
・大学の授業において扱っている内容、展開の工夫、効果のあった指導法など
・教員歴の長い先生方の教え方など、工夫して教えられている点や評価のためのテスト項目を作成するプロセスなど、理論と合わせて実践的な手法

【次回の支部大会掲載についてのアンケートのお願い】

最後に、次回以降の関東支部大会の開催形態などについてのアンケートのお願いを申し上げます。

形態は、3 つの可能性（対面開催・Zoom 開催・ハイフレックス開催）を考えています。頂いた回答と、関東支部の予算や人員の関係などを考慮し、決めて参ります。以下のような長所や短所を考えておりますが、他にもあるかと思います。
・対面開催：会員同士の交流の促進・特に新しい関係構築に有益・非言語情報が伝わりやすい点・賛助会員などの展示物を一覧で理解できる点
・Zoom 開催（後日録画視聴サービス付き）：発表の時間と場所に制限をあまり受けない点・交通費不要・録画視聴の場合は停止してスライドを検討できる点
・上記 2 つのハイフレックス開催：上記２つの長所を兼ねるという長所・開催のための手間と費用がかかるという短所

アンケートは、以下のフォームの URL をクリックしてご回答ください。整理の都合上、10 月 3 日（火）を回答最終日とさせていただきます。
https://forms.gle/E2TZuAgwee5hyHvm6

第 1 回支部総会報告
支部事務局幹事
佐竹由帆（青山学院大学）

2023 年 7 月 8 日（土）にオンラインで、2023 年度第 1 回支部総会が開催されました。支部総会では、2022 年度事業報告・会計報告、2023 年度事業計画についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。なお、支部総会以降に日時等変更が生じたものについては、混乱を避けるため、適宜修正しております。会計報告は省略いたしました。

■2022 年度事業報告
Ⅰ．大会、セミナー等の開催（1 号事業）
（1）支部大会の開催
名称：2022 年度関東支部大会
日時：2022 年 7 月 9 日（土）
場所：青山学院大学/ オンライン
大会テーマ: The Exploration of New Forms of Study Abroad
研究発表 4 件、実践報告 2 件、基調講演 1 件、ワークショップ 1 件、SIG 発表 2 件、賛助会員発表 1 件、ライトニングプレゼンテーション 3 件
参加申込み登録者数：約 100 名

（2）支部講演会の開催
第 1 回
日時：2022 年 6 月 11 日（土）16:00-17:20
講師：山川智子 先生（文教大学教授）
場所：オンライン（Zoom）
日本語題目：欧州評議会の「複言語・複文化主義」が持つ現代史的意義
英語題目：The Modern Historical Significance of the

Council of Europe's "Plurilingualism / pluriculturalism"

第 2 回
日時： 2022 年 10 月 8 日（土）16:00-17:20
講師： 馬場千秋 先生（帝京科学大学教授）
場所： オンライン（Zoom）
題目： 多様な学生を対象としたリメディアル英語授業

第 3 回
日時：2022 年 12 月 10 日（土）16:00-17:20
講師：マルチェッラ・マリオッティ 先生（ヴェネツィア・カフォスカリ大学准教授）
西田翔子 先生（ヴェネツィア・カフォスカリ大学日本語講師）
場所：オンライン（Zoom）
題目：ヴェネツィア・カフォスカリ大学での日本語教育―多様な実践のあり方へ―

（3）JACET 関東支部企画ワークショップの開催
日時：2022 年 11 月 5 日（土）14:00-16:00
場所：オンライン
題目：今日から始めるベイズ統計
講師：高橋知也 先生（東京都健康長寿医療センター研究所）

Ⅱ.『紀要』「支部ニューズレター」等の出版物の刊行（2 号事業）
(1)『関東支部紀要』第 10 号の刊行
日時：2023 年 3 月 31 日
発行： デジタルデータ
※関東支部ホームページに掲載

(2)『関東支部ニューズレター』第 19 号、第 20 号の刊行
日時： 2022 年 9 月 30 日
2023 年 3 月 31 日
※関東支部ホームページに掲載

Ⅲ．その他（5 号事業）
(1)支部総会の開催
名称：2022 年度 第 1 回、第 2 回関東支部総会
日時：1) 2022 年 7 月 9 日 （オンライン）
2) 2022 年 11 月 5 日 （オンライン）
目的：1) 2021 年度の支部の事業報告、会計報告、2022 年度の支部の事業計画
2) 2023 年度の支部の事業計画、予算案および人事案の審議

（2）支部役員会の開催
名称：関東支部運営会議
日時：2022 年 4 月 9 日、5 月 14 日、6 月 11 日、7 月 2 日、9 月 10 日、10 月 8 日、11 月 5 日、12 月 10 日、2023 年 1 月 7 日、3 月 11 日
場所：オンライン
目的：関東支部における支部事業、研究会活動、運営の報告、及び活動報告の立案、協議を行った。コロナウイルス対策のため、すべてオンラインで会議を実施した。

■2023 年度事業計画
Ⅰ．大会、セミナー等の開催（1 号事業）
（1）支部大会の開催
名称：2023 年度関東支部大会
日程：2023 年 7 月 8 日（土）
場所：青山学院大学/ オンライン
規模：約 150 人

（2）支部講演会の開催
名称： 第一回 JACET 関東支部講演会
日程： 2023 年 6 月 10 日（土）
講師： 片山晶子 先生 (東京大学・早稲田大学非常勤講師)
場所： オンライン（Zoom）
題目： 言語習得・言語使用の質的研究 −インタ

ビューを中心に

名称：第二回 JACET 関東支部講演会
日時：10 月 14 日（土）16:00-17:20
講師：金丸敏幸 先生（京都大学国際高等教育院准教授）
場所：オンライン（Zoom）
題目：大学英語授業に ChatGPT を活かすには －生成 AI の利点と注意点－

名称：第三回 JACET 関東支部講演会
日時：12 月 16 日（土）16:00-17:20
講師：奥切 恵 先生 （聖心女子大学国際交流学科教授）、竹田らら 先生 （昭和女子大学全学共通教育センター准教授）
場所：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）
内容：未定

（3）JACET 関東支部企画の開催
名称：JACET 関東支部企画
日程：2023 年 11 月 4 日（土）を予定
場所：オンライン（予定）
内容：未定

Ⅱ.『紀要』「支部ニューズレター」等の出版物の刊行（2 号事業）
（1）『JACET 関東支部紀要』第１１号（英語名：JACET-KANTO Journal）
日程：2024 年 3 月 31 日（日）
形態：XML データ（ウェブ掲載）

（2）『JACET 関東支部ニューズレター』
日程：2023 年 9 月 30 日（第 21 号）
2024 年 3 月 31 日（第 22 号）
形態：オンライン（JACET 関東支部ホームページに PDF で掲載）

Ⅲ．その他（5 号事業）
（1）支部総会の開催
名称：2023 年度第 1 回、第 2 回関東支部総会
第 1 回
日時：2023 年 7 月 8 日（土）12:30-12:50
形態：オンライン
目的：2022 年度の支部の事業報告、会計報告
2023 年度の支部の事業計画
第 2 回
日程：2023 年 11 月 4 日（土）（関東支部企画と同日に実施）
形態：オンライン
目的：2024 年度の支部事業計画、予算案及び人事案の審議

（2） 支部役員会の開催
①第 1 回支部運営会議
日時：2023 年 4 月 8 日（土）14:30～15:30
形態：オンライン会議
議題：2023 年度支部大会について

②第 2 回支部運営会議
日時：2023 年 5 月 13 日（土）14:30～15:30
形態：オンライン会議
議題：2023 年度支部大会について

③第 3 回支部運営会議
日時：2023 年 6 月 10 日（土）14:30～15:30
形態：オンライン会議
議題：2023 年度支部大会について

④今後の予定
第４回 9 月 9 日（土）14:30～15:30
第５回 10 月 7 日（土）14:30～15:30
第６回 11 月 4 日（土）14:30～15:30
第７回 12 月 9 日（土）14:30～15:30
第８回 2024 年 1 月 13 日（土）14:30～15:30
第９回 3 月 9 日（土）14:30～15:30

形態： オンライン
目的： 支部の運営における審議、計画の立案

支部講演会委員会報告
支部講演会委員長
青木理香（東洋大学）

■2023 年度上半期活動報告■

2023 年度上半期は、6 月 10 日（土）に第 1 回支部講演会を行った。講師には片山晶子先生（東京大学・早稲田大学非常勤講師）をお招きし、「言語習得・言語使用の質的研究–インタビューを中心に–」というタイトルでご講演いただいた。100 名以上の申し込みがあり、盛況の中で幕を閉じた。

■2023 年度下半期活動計画■

2023 年度下半期は、10 月 14 日（土）に金丸敏幸先生（京都大学国際高等教育院准教授）をお招きし、「大学英語授業に ChatGPT を活かすには ー生成 AI の利点と注意点」というタイトルで第 2 回支部講演会を開催予定である。また、12 月 16 日（土）に、奥切恵先生（聖心女子大学教授）と竹田らら先生（昭和女子大学特命准教授）による第 3 回支部講演会を予定している。

JACET 関東支部講演会（第 1 回）報告
支部講演会委員長
青木理香（東洋大学）

日時：2023 年 6 月 10 日（土）16:00〜17:20
講師：片山晶子 先生（東京大学・早稲田大学非常勤講師）
場所：オンライン（Zoom）
日本語題目：言語習得・言語使用の質的研究–インタビューを中心に–
英語題目：英語題目：Qualitative research on language learning and language use: Focusing on the interview method

発表概要：
かつては認知科学・心理学の方法に準拠した量的手法が中心だった第二言語習得（SLA）の研究は、近年「社会派」に転じたと言われる（Block, 2003）。最近では、言語習得の当事者の内面や、習得が起こる（あるいは起こらない）直接・間接の状況・環境・来歴・政治的力関係等に目を向けた学際的研究に大きな関心が集まっている。それと同時に、一般化を求める量的研究とは目的・方法・思想が異なる質的研究が盛んに行われるようになってきた。また量的・質的両方のアプローチを用いた混合手法の研究への注目度も高まってきている。

この講演では、主として日本で英語教育に携わる方々を対象に、このような言語習得・言語使用の質的研究について、特によく用いられ応用範囲の広い手法であるインタビューを中心に、実際の研究を例に具体的に論じる。

[講演のアウトライン]
1) 言語習得・言語使用の質的研究とは
2) 日本の英語教育に関する質的研究
3) 質的研究者としての語学教員

報告：
質的研究に興味がある人やこれから取り組みたい人向けに、質的研究の概要、日本における質的研究、語学教員が質的研究を行う際に心がけるべきことを中心に、推薦図書や重要な先行研究とともにお話しいただいた。まずは SLA 研究や言語使用に関する質的研究の理論背景およびその方法を、歴史を辿りながら説明していただいた。理論背景では、特に 1990 年代半ばから社会派 SLA によって提唱された Social Turn が質的研究に大きな影響を与えたことに触れられた。また、研究方法

についてはエスノグラフィー、ナラティブ、混合メソッドなどについて、先生が実際に行った研究におけるエピソードを交えながら、その違いや注意点についてご教示いただいた。次に、日本の英語教育に関する質的研究について、先行研究や方法、質的研究でわかることや注意点などについて話していただいた。データ収集方法としては、最近では言葉で書かれた意見を集めるツールとしてSNSも使用可能であることを示唆された。Q&Aセッションでは、ナラティブの記録方法、インタビューする際の障壁、コーディングや書き起こし、さらに質的研究の信頼性などに関する質問があり、活発な意見交換が行われた。（青木理香・東洋大学）

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長

鈴木健太郎（北海道教育大学）

紀要編集委員会は、2024年3月の『関東支部紀要』第11号 （JACET-KANTO Journal Vol. 11）発行に向けて準備を進めております。8月末に投稿を締め切り、これから査読者の方に原稿を審査していただく段階にあります。

委員会の体制ですが、今年度から私が委員長を務めさせていただきます。初代の伊東弥香先生（東海大学）、2代目の鈴木彩子先生 （玉川大学、現副委員長）に築き上げていただいた素晴らしい流れを引き継ぐとともに、少しでも発展させられるよう精進して参ります。みなさま、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度のこれまでの業務内容としては、昨年に引き続き投稿テンプレートの改定と審査基準の一部修正を行いました。具体的には、テンプレートのAPA第7版への対応（日本語を含む）をするとともに、 引用文献の表記をより広く用いられているものに変更することで、多くの方にとって投稿しやすいものにできるよう心掛けました。審査基準に関しては、査読者と投稿者の双方にとってわかりやすく、客観的な基準になるように文言の修正などを行いました。これらの改定作業をするにあたって、小木曽智子先生（富山大学）と神村幸蔵先生（筑波技術大学）から多大なるご尽力を賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。

私自身、関東支部の紀要編集委員になってから約6年が経ちましたが、その間委員の先生方、投稿者の方、査読者の方などとのやり取りを通して大変多くのことを学ばせていただきました。紀要編集委員は、投稿から出版に至るまでの約半年間で投稿者の方と何度もやり取りをさせていただくこともありますが、査読者の方を介してよりよい原稿をご執筆いただき、それらを読者の方にお届けできるよう、「伴走者」として一生懸命サポートさせていただきますので、どうかご理解・ご協力いただけますと幸いです。それでは、今後とも紀要編集員の活動をどうぞよろしくお願いいたします。

事務局だより

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

■JACET 関東支部講演会および支部企画のお知らせ■

2023 年度の今後の関東支部講演会及び関東支部企画開催予定は以下の通りです。第 2 回講演会の申し込みが始まっております。詳しくは関東支部ホームページ（http://www.jacet-kanto.org/）もご覧ください。多くの方のご参加をお待ちしております。

◇2023 年度第 2 回関東支部講演会

日時：10 月 14 日（土）16:00-17:20

形態：オンライン（Zoom）

題目：大学英語授業に ChatGPT を活かすには ー生成 AI の利点と注意点
講師：金丸敏幸 先生（京都大学国際高等教育院准教授）
参加費：無料（定員 100 名）
事前申込制：
https://forms.gle/VwVkGQquxwkwQzGbA

◇JACET 関東支部企画
日程：2023 年 11 月 4 日（土）
形態：オンライン（予定）
内容：未定

◇2023 年度第 3 回関東支部講演会
日時：12 月 16 日（土）16:00-17:20
講師：奥切 恵 先生（聖心女子大学国際交流学科教授）、竹田らら 先生（昭和女子大学全学共通教育センター准教授）
形態：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）
内容：未定

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

***JACET-Kanto Newsletter* 第 21 号**
発行日：2023 年 9 月 30 日
発行者：JACET 関東支部 （支部長 山口高領）
編集者：長田恵理、下山幸成、藤尾美佐
発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25
青山学院大学 佐竹由帆 研究室